

- 海外において3D積層技術を活用した量産化が加速化する一方で、日本のモノづくり現場で3Dが普及しない一番の要因は、3D製造プロセスでは、3D向けのデザイン・設計、3D造形が必要であることに加えて、一体造形により金型や組立が不要である等、従来の製造プロセスに比べて大幅に変わる点にある。
- 日本のモノづくり現場で3D積層技術を普及させるためには、3D積層造形ならではの魅力を見出しそれを実現する3D向けのデザイン・設計、造形、評価を容易に活用できる環境整備が必要。

◆ 従来工法と3D製造プロセスとの違い

